

バート語語形変化チートシート ver.1.2

名詞・代名詞

子音幹 母音幹	主格/無格	対格	属格	具格	後置格	後置格 +hína	(*) -om: 代名詞に使われがち -homá/-omá: 一般名詞に使われがち 但し ko の単数・属格は koom ではなく kohomá である。
単数	-Ø/-i -Ø	-ele -dhel	-án -om/-homá (*)	-ai -bhau	-i -đi	-i hína -đi hína	
複数	-á -zá	-elená -dhelá	-áná -oma/-home (*)	-ainá -bhauná	-iná -dhíná	-ína -dhína	

人称代名詞 (全て単数曲用)	一人称	二人称	三人称・男性	三人称・女性
単数	ápa	áma	kí	ká
複数	bháma(包括) / bhá(除外)	mábha	kişlo	kaşlo

主属同形名詞

- 1) n/m で終わる名詞の一部 (多くのバート人名など) は単数主格と単数属格が同形
- 2) şán は単数対格語尾として -el/-ele をもつ
- 3) non は単数対格語尾として -el のみをもつ

単複同形名詞

-şlo で終わる名詞は単数名詞として曲用する

動詞

基本形	I	II	III	IV	V	VI
代表例	-úl 不定詞	-Ø/-zem 命令形	-múná 二人称過去分詞	-z 名詞化第一	-ş 名詞化第三	-amúná 二人称丁寧過去分詞

	一人称	二人称	三人称・女性	三人称・男性	指示・固有
終止詞	III-dhí	III-mú	III-ze	III-bhá	III-ká
過去分詞	III-dína	III-múná	III-zená	III-báta	III-kátá
未来分詞	III-díha	III-múhá	III-zebá	III-bášlo	III-kášlo
受動終止詞	VI-o	III-ní (*)	III-sá	III-ší	III-ho
受動過去分詞	VI-oná	III-nína (*)	III-sátá	III-şiná	III-honá
受動未来分詞	x	III-níha (*)	III-sášlo	x	III-hobá
丁寧終止詞	VI-adhí	VI-amú	III-cai		III-ká
丁寧過去分詞	VI-adína	VI-amúná	III-cainá		III-kátá
丁寧未来分詞	VI-adíha	VI-amúha	III-caiha		III-kášlo

(*) 迷惑・不快を示す接中辞 -(a)man- によって生産された動詞 (「迷惑幹」) では III の末母音を落とす
(**) II-zem の形 II が開音節一つで構成されているときのものである
(***) núl においては例外的に núal
(****) V が -đi で終わるときは、それを -hí にした形

その他

意志の存在を示す接中辞 -(a)boh- は III を要求するが、bohúl やそれに由来する語では、-oh-aboh- だけではなく -omoh- の形も許される。

命令形	II / II-zem (**)
不定詞	I-úl
受動不定詞	I-ál (***)
名詞化第一	IV-z
名詞化第二	I-ú
名詞化第三	V-ş
名詞化第四	V (****)
名詞化第五 (中性)	III-káta
名詞化第五 (男性・女性)	III-bát
非完了の状況副詞化	IV-ma
完了の状況副詞化	IV-ghi

規則動詞での基本形と辞書形 (不定詞) の関係

- 1) 第 I 語幹・第 II 語幹: 辞書形から -úl を除いたもの
- 2) 第 III 語幹・第 IV 語幹: 第 I 語幹・第 II 語幹が母音終わりのときはそのままで子音終りのときは -a- をつけて得られるもの
- 3) 第 V 語幹: 第 I 語幹・第 II 語幹が母音終わりなら -đi- をそうでなければ -i- を繋げたもの
- 4) 第 VI 語幹: 第 III 語幹・第 IV 語幹のあとに -i- (但し直前が i, í, e なら -i-) を繋げたもの

コラム: 活用と時制の関係

表面的な現象をさうよりも次のことを理解した方がわかりよいだろう:

- 1) 動作動詞は「時間をかけて段々に完了状態に移行していく」、瞬間動詞は「一瞬で完了状態に移行する」、状態動詞は「(ある時点である状態になるというイベントがあって) ある状態である」といった意味合いがある
- 2) 終止詞 / 過去分詞 / 未来分詞は状態遷移が現在 / 過去 / 未来で起こることを示す
- 3) 過去分詞 / 未来分詞と組み合わせる要素である hem/- (a)bháp- の機能は、それぞれ動詞が表す時点を「状態遷移が完了した時点」「状態遷移が完了した時点より少し後」に変更することである

不規則動詞の基本形

二重子音幹: II は I と同綴だが末尾に /ə/ を挿入する
c 幹: II, V で -c(i)- は -ş(i)- でもよい
ah/oh 幹: II で -au- / -o-
長母音 +gh 幹: II で -g-
短母音 +gh 幹: II で -Ø- となり短母音が延長
迷惑幹: II で -mán-, VI で -mall-
ilor 幹: II で -il-~-ilor-, VI で -ill-
o/or 幹: V で -o(i)- である。一部の語で II が -o(i)- であるが、それらの語では VI に -o(i)- も許される
子音 +u/or 幹: II で -ul-, IV で -ulla-, V で -ulí-, VI で -ull-
短音節 +m/n 幹: IV で -mma-/-nna-, V で -mí/-ní-
aj 語幹: V で -ajđi- であり、単音節語幹では IV で -aj-
ij 語幹: V で -ijđi-
uj 語幹: II で -ú-, V で -úđi- であり、単音節語幹では IV で -ú-
cazúl: II と IV で cazau-

cahúl: II と IV で cau-
zúl: II と IV で zau-, V で zauđi-, VI で zal-
núl: II と IV で nú-, III で núa-, V で núađi-, VI で núal-
rijúl: IV で rij-, V で rijđi-, VI で rijal-~ril-
suúl: IV で su_zau-, V で suđi-